

桜井 厚先生 略年譜

学歴

1971年3月	大阪大学工学部機械工学科卒業
1974年3月	東京教育大学文学部社会学科卒業
1977年3月	東京教育大学大学院文学研究科修士課程修了
1982年3月	東京都立大学大学院社会科学研究科博士課程単位取得退学

職歴

1971年4月	日立プラント建設株式会社入社
1982年4月	南山短期大学人間関係学科講師
1986年4月	中京大学社会学部助教授
1992年10月	中京大学社会学部教授
1998年4月	千葉大学文学部行動科学科教授
2006年4月	立教大学社会学部社会学科教授
2013年3月	立教大学社会学部社会学科退職

集中講義、非常勤講師等

この間、名古屋大学教養部、名古屋大学文学部、広島修道大学人文学部、聖心女子大学歴史社会学科、東京大学文学部、京都大学大学院文学研究科、上智大学大学院総合人間科学研究科、早稲田大学文学部、早稲田大学大学院文学研究科、首都大学大学院人文科学研究科、お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科、東洋大学社会学部、東洋大学大学院社会学研究科、九州大学大学院人間環境学研究院等の非常勤講師、University of Essex 客員研究員

所属学会

日本社会学会、関西社会学会、日本オーラルヒストリー学会、関東社会学会

桜井 厚先生 業績一覧

単 著

- ① 『生活戦略としての語り——部落からの文化発信（リリアンズ・ブックレット7）』（社）反差別国際連帯解放研究所しが、1998年5月
- ② 『インタビューの社会学——ライフストーリーの聞き方』せりか書房、2002年1月
- ③ 『境界文化のライフストーリー』せりか書房、2005年1月
- ④ 『現代社会学ライブラリー7 ライフストーリー論』弘文堂、2012年10月

共著・編著

- ① 女と男が火曜会編（代表：桜井厚）『いまを生きる男たちへ』名古屋市民局広報相談部婦人問題担当室、1986年8月
- ② 福岡安則・好井裕明・桜井厚・江嶋修作・鐘ヶ江晴彦・野口道彦編『被差別の文化・反差別の生きざま』明石書店、1987年5月
- ③ 桜井陽子・桜井厚『幻想する家族』弘文堂、1987年9月
- ④ 石井久美子・奥村和子・桜井厚・早川彰子・本田美保子・松本八重子『私らしさ 創るひとに』名古屋市民局広報相談部婦人問題担当室、1988年12月
- ⑤ 奥村和子・桜井厚編『わたちのライフストーリー』谷沢書房、1991年11月
- ⑥ 天野正子・桜井厚『「モノと女」の戦後史』有信堂、1992年9月→（再刊）『「モノの女」の戦後史』平凡社ライブラリー、2003年3月
- ⑦ 中野卓・桜井厚編『ライフヒストリーの社会学』弘文堂、1995年2月
- ⑧ 桜井厚・中川ユリ子・山本哲司『生のかたち——被差別部落の生活史を訪ねて（リリアンズブックレット3）』（社）反差別国際連帯解放研究所しが、1995年3月
- ⑨ 岸衛・桜井厚（反差別国際連帯解放研究所しが）編『語りのちから』1995年11月
- ⑩ 桜井厚・岸衛・中川ユリ子・山本哲司・田中政明（野洲町部落史編さん委員会・（社）反差別国際連帯解放研究所しが編）『人びとが語る暮らしの世界——野洲の部落史』野洲町、1999年3月
- ⑪ 桜井厚・岸衛（（社）反差別国際連帯解放研究所しが編）『手縫い靴と職人——もうひとつの近江文化③』（社）反差別国際連帯解放研究所しが、2000年3月
- ⑫ 好井裕明・桜井厚編『フィールドワークの経験』せりか書房、2000年5月
- ⑬ 桜井厚・岸衛編『屠場文化——語られなかった世界』創土社、2001年6月
- ⑭ 岸衛・桜井厚『屠場の世界（リリアンズ・ブックレット10）』（社）反差別国際連帯解放研究所しが、2002年3月
- ⑮ 桜井厚・好井裕明編『差別と環境問題の社会学』新曜社、2003年3月
- ⑯ 桜井厚編『ライフストーリーとジェンダー』せりか書房、2003年7月
- ⑰ 桜井厚・小林多寿子編『ライフストーリー・インタビュー』せりか書房、2005年12月

- ⑮ 桜井厚編『戦後世相の経験史』せりか書房、2006年5月
- ⑯ 桜井厚・山田富秋・藤井泰編『過去を忘れない——語り継ぐ経験の社会学』せりか書房、2008年12月
- ⑰ 岸衛・桜井厚『差別の境界をゆく——生活世界のエスノグラフィー』せりか書房、2012年10月

訳 書

- ① Thomas, William I. and Znaniecki, Florian, 1958, The Polish Peasant in Europe and America, Dover (桜井厚訳『生活史の社会学——ヨーロッパとアメリカにおけるポーランド農民』(抄訳) 御茶の水書房、1983年5月)
- ② Schutz, Alfred, 1964, Collected Papers II Studies in Social Theory: Applied Theory, edited and introduced by Arvid Brodersen, Martinus Nijhoff, The Hague (桜井厚訳『現象学的社会学の応用』(抄訳) 御茶の水書房、1980年8月)
- ③ Sherman, Julia A. and Beck, Evelyn T. eds., 1979, The Prism of Sex: Essays in the Sociology of Knowledge, The Board of Regents of the University of Wisconsin System (田中和子編訳『性のプリズム——解放された知を求めて』勁草書房、1987年8月)
- ④ Plummer, Ken, 1995, Telling Sexual Stories: Power, Change and Social Worlds, Routledge (桜井厚・好井裕明・小林多寿子訳『セクシュアル・ストーリーの時代』新曜社、1998年5月)

論 文

- ① 「社会学的調査における若干の問題点」『呼松町住民の意識』東京教育大学社会学教室、1976年9月→修正校(未発表)
- ② 「日本の近代化と大正期の労働社会(修士論文)」→「日本の近代化と大正期の労働社会——生活様式の変革」『続・現代社会の実証的研究——東京教育大学社会学教室最終論文集』東京教育大学社会学教室、1977年3月
- ③ 「柳田国男における社会変動の構造」『社会学論考』創刊号、東京都立大学大学院社会学研究会、1980年3月
- ④ 「都市の象徴性——柳田国男の都市像から」『えるべか(同人誌)』no.22(発行人:桜井厚)1980年4月→(再録:⑤へ)
- ⑤ 「働く既婚女性の増加と家庭生活の変容」(ペンネーム:石野厚)『女・再就職』ユック舎、1980年11月
- ⑥ 「都市化過程における村落秩序の多様化——津軽地方の一農村調査から」『社会学論考』第3号、1982年5月
- ⑦ 「社会学における生活史研究」『南山短期大学紀要』第10号、南山短期大学、1982年12月
- ⑧ 「生活史の第一義的意味——個人の生活世界の理解」『南山短期大学紀要』第11号、南山短期大学、1983年12月
- ⑨ 「川と水道——水と社会の変動」鳥越皓之・嘉田由紀子編『水と人の環境史——琵琶湖報告書』御茶の水書房、1984年10月
- ⑩ 「女性と社会変動」若林満・伊藤雅子編『女性は自立する』福村出版、1985年4月
- ⑪ 「被差別部イメーの転換」江嶋修作編『社会「同和」教育変革期』明石書店、1985年6月

- ⑫ 「水と社会の変動——水道化のプロセス」『社会学論考』第7号、東京都立大学社会学研究会、1986年5月
- ⑬ 「主観的リアリティとしてのライフ・ヒストリー」『中京大学社会学部紀要』創刊号、中京大学社会学部、1986年12月
- ⑭ 「生活世界の葛藤としての環境問題」『中京大学社会学部紀要』第1巻第2号、中京大学社会学部、1987年3月
- ⑮ 「被差別部落の生活史(1)——性規範・性役割の非対称性とその変化」『中京大学社会学部紀要』第2巻第2号、中京大学社会学部、1988年3月
- ⑯ 「有賀理論的方法的基礎と生活史研究」柿崎京一・黒崎八州次良・間宏編『有賀喜左衛門研究——人間・思想・学問』御茶の水書房、1988年8月
- ⑰ 「語りのなかの女たち——被差別部落の生活史(2)」『中京大学社会学部紀要』第3巻第1号、中京大学社会学部、1988年11月
- ⑱ 「語りのリアリティ——被差別部落の生活史(3)」『中京大学社会学部紀要』第3巻第2号、中京大学社会学部、1989年3月
- ⑲ 「生活世界と産業主義システム」鳥越皓之編『環境問題と社会理論——生活環境主義の立場から』御茶の水書房、1989年3月
- ⑳ 「戦後生活世界における自然の意味——「長岡ゲンジボタル」保護活動から」『中京大学社会学部紀要』第4巻第1号、中京大学社会学部、1989年6月
- ㉑ 「戦後都市社会の変貌——名古屋市の戦後銭湯史(1)」『中京大学社会学部紀要』第4巻第2号、中京大学社会学部、1989年11月
- ㉒ 「語りにみる被差別のリアリティ」『解放社会学研究』4、日本解放社会学会（発売：明石書店）、1990年3月
- ㉓ 「たくましく生きる女たち——野洲町和田地区の聞きとりから」（桜井厚・角知行・三浦典子共著）『解放研究しが』創刊号、反差別国際連帯解放研究所しが、1991年5月
- ㉔ 「はしがき」「解放運動の展開と生活ネットワークの形成——〈生活環境〉から〈ネットワーク〉へ」『解放社会学研究』5、日本解放社会学会（発売：明石書店）、1991年6月
- ㉕ 「会話における語りの位相——会話分析からライフストーリーへ」好井裕明編『エスノメソドロジーの現実』世界思想社、1992年4月
- ㉖ 「奪われた職／生活を創る仕事——野洲町和田地区の聞きとりから(2)」『解放研究しが』2号、反差別国際連帯解放研究所しが、1992年5月
- ㉗ 「社会学におけるライフヒストリー研究——その手法における特質と問題」『ソーシャルワーク研究』18-3、ソーシャルワーク研究所、1992年10月
- ㉘ 「生活に根ざす解放運動——湖北地域のある支部活動の戦後史」『解放研究しが』3号、1993年5月
- ㉙ 「方法論としての生活史」松平誠・中寫邦編『講座生活学3 生活史』光生館、1993年9月
- ㉚ 「家族——ある家族のモノ語り」間宏編『高度経済成長下の生活世界』文真堂、1994年4月
- ㉛ 「共同報告 語りにみる生活文化史」（桜井厚・南今日香・好井裕明・岸衛共著）『解放研究しが』第4号、反差別国際連帯解放研究所しが、1994年5月
- ㉜ 「氏神祭祀からみた被差別部落——社会構造の特質を理解するために」『中京大学社会学部紀要』

第10号第2号、中京大学社会学、1996年2月

- ③③ 「ライフヒストリー・インタビューにおけるジェンダー」 谷富夫編『ライフ・ヒストリーを学ぶ人のために』世界思想社、1996年5月
- ③④ 「戦略としての生活——被差別部落のライフストーリーから」 栗原彬編『講座差別の社会学2 日本社会の差別構造』弘文堂、1996年12月
- ③⑤ 「『不安定』就労は、どのように語られたか——『仕事』選択の自由と不自由」『解放研究しが』9号、(社)反差別国際連帯解放研究所しが、1999年5月
- ③⑥ 「語りを聞く方法——ライフストーリー・インタビューの方法論」『解放研究しが』11号、(社)反差別国際連帯解放研究所しが、2001年5月
- ③⑦ 「生活と差別のはざま——『部落産業』の衰退と被差別意識の変化」『解放社会学研究』16、日本解放社会学会、2002年3月
- ③⑧ 「社会調査の困難」『社会学評論』212、日本社会学会、2003年3月
- ③⑨ 「ライフヒストリー研究における〈インタビューの経験〉」『史資料ハブ』no.2、21世紀COEプログラム「史資料ハブ地域文化研究拠点」、2003年9月
- ④① 「Stories of the Slaughterhouse」『人文研究』第33号、千葉大学、2004年3月
- ④② 「もうひとつの〈部落〉」『解放研究しが』15号、(社)反差別国際連帯解放研究所しが、2005年5月
- ④③ 「ライフストーリーから見た社会」山田富秋編『ライフストーリーの社会学』北樹出版、2005年10月
- ④④ 「オーラル・ヒストリーの対話性と社会性」『歴史学研究』no.811、2006年2月
- ④⑤ 「ライフストーリー・インタビューの意義と方法」『言語』vol.35no.2、大修館書店、2006年2月
- ④⑥ 「ライフストーリーの社会的文脈」能智正博編『〈語り〉と出会う』ミネルヴァ書房、2006年12月
- ④⑦ 「ライフストーリー研究における倫理的ディレンマ」『先端社会研究』第6号、関西学院大学大学院社会学研究科21世紀COEプログラム、2007年3月
- ④⑧ 「被差別の伝承から経験的語りへ——被差別部落のライフストーリー研究から」『日本民俗学』252、日本民俗学会、2007年11月
- ④⑨ 「ライフストーリー研究におけるジェンダー」 谷富夫編『新版ライフヒストリーを学ぶ人のために』世界思想社、2008年9月
- ④⑩ 「口述資料の重要性——『経験的語り』の歴史叙述」『日本オーラルヒストリー研究』第4号、日本オーラル・ヒストリー学会、2008年10月
- ⑤① 「沖縄戦の『体験』と『経験』の語り——語りから語り継ぐ実践へ」片桐雅隆編『アイデンティティと語り——人文社会科学研究科研究プロジェクト報告書』第193集、千葉大学大学院人文社会科学研究所、2009年2月
- ⑤② 「屠場の社会／社会の屠場」菅豊編『人と動物の日本史』吉川弘文館、2009年3月
- ⑤③ 「差別の日常——カテゴリー化実践の問題性」高校生のための社会学編集委員会編『高校生のための社会学』ハーベスト社、2009年6月
- ⑤④ 「〈体験〉と〈経験〉の語り——沖縄戦のオーラル・ヒストリーから」『日本オーラル・ヒストリー研究』第5号、日本オーラル・ヒストリー学会、2009年9月
- ⑤⑤ 「都市の象徴性——柳田国男の都市像から」『都市民俗研究の方法——都市民俗基本論文集1』岩

田書院、2009年10月（④の再録）

- ⑤⑤ 「ライフストーリーの時間と空間」『社会学評論』60(4)、日本社会学会、2010年3月
- ⑤⑥ 「『事実』から『対話』へ——オーラル・ヒストリーの現在」『思想』no.1036、岩波書店、2010年8月
- ⑤⑦ 「問題経験の語りがたさ、あるいは沈黙」『社会学論叢』no.172、日本大学社会学会、2011年12月
- ⑤⑧ 「戦争体験を語り継ぐストーリーの分析——沖縄戦の語り」『応用社会学研究』no.55、立教大学社会学部、2013年3月
- ⑤⑨ 「オーラリティの復権——『口述の生活史』前後」『現代民俗学研究』第5号、現代民俗学会、2013年3月
- ⑥⑩ 「『口述の生活史』はいかにして成立したか」山田富秋・好井裕明編『語りが拓く地平——ライフストーリーの新展開』せりか書房、2013年10月

調査報告書

- ① 桜井厚・中野清編『名古屋栄地区地下街調査報告書——地下街を読む』南山短期大学人間関係科、1985年9月
- ② 米原町同和問題啓発資料等調査研究協議会聞き取り調査班（代表：桜井厚）『被差別部落の生活と文化——聞き取り調査報告書』（1）(2)、米原町、1995年3月
- ③ (社)反差別国際連帯解放研究所しが編『部落生活文化史調査研究報告書』I-1、I-2、(社)反差別国際連帯解放研究所しが、1995年3月
- ④ (社)反差別国際連帯解放研究所しが編『部落生活文化史調査研究報告書』I-1、I-2、I-3、滋賀県教育委員会、1997年3月
- ⑤ 岸衛・桜井厚・中島勝住・三浦耕吉郎（(社)反差別国際連帯解放研究所しが編）『もうひとつの近江文化——部落生活文化史調査研究』滋賀県教育委員会、1997年3月
- ⑥ (社)反差別国際連帯解放研究所しが編『部落の生活文化史調査研究報告書』第1巻、第2巻、第3巻、野洲町、1998年3月
- ⑦ (社)反差別国際連帯解放研究所しが編『部落生活文化史調査研究報告書』滋賀県教育委員会、1999年3月
- ⑧ 野洲町部落史編さん委員会・(社)反差別国際連帯解放研究所しが編『人びとが語る暮らしの世界——野洲の部落史』野洲町、1999年3月
- ⑨ (社)反差別国際連帯解放研究所しが編『部落生活文化史調査研究報告書』滋賀県教育委員会、2000年3月
- ⑩ 『団塊世代の男らしさについての研究——平成12年度～14年度科学研究費補助金（基盤研究(C)2）研究成果報告書』（研究代表者：桜井厚）2003年3月
- ⑪ (社)反差別国際連帯解放研究所しが編『部落生活文化史調査研究報告書』滋賀県教育委員会、2002年3月
- ⑫ (社)反差別国際連帯解放研究所しが編『部落生活文化史調査研究報告書』滋賀県教育委員会、2003年3月
- ⑬ (社)反差別国際連帯解放研究所しが編『部落出身者の「今」——アイデンティティ形成と新たな困難』滋賀県教育委員会、2003年3月

- ⑭ (社)反差別国際連帯解放研究所しが編『部落生活文化史調査研究報告書』滋賀県教育委員会、2004年3月
- ⑮ 桜井厚編『コミュニティ形成におけるメディア経験と語り——社会文化科学研究科研究プロジェクト報告書』第34集、千葉大学大学院社会文化科学研究科、2006年3月
- ⑯ 『食肉・皮革産業従事者の生活史と被差別アイデンティティの変容についての社会学的研究——平成15年度～17年度科学研究補助金(基盤研究(B)(2))研究成果報告書』(研究代表者:桜井厚)2006年3月
- ⑰ (社)反差別国際連帯解放研究所しが編『「部落であること」をめぐる——部落問題にかかわる意識の変容に関する調査研究報告書』滋賀県教育委員会、2008年3月
- ⑱ 桜井厚編『戦争体験を語り継ぐ——沖縄のフィールドから』立教大学社会学部社会学科、2009年3月
- ⑲ 輸入血液製剤によるHIV感染問題調査研究委員会編『医師と患者のライフストーリー——輸入血液製剤によるHIV感染問題調査研究最終報告書 第2分冊資料編 医師の語り』ネットワーク医療と人権、2009年3月
- ⑳ 輸入血液製剤によるHIV感染問題調査研究委員会編『医師と患者のライフストーリー——輸入血液製剤によるHIV感染問題調査研究最終報告書 第3分冊資料編 患者・家族の語り』ネットワーク医療と人権、2009年3月
- ㉑ 日本社会学会社会学教育委員会編『海外の社会学教育と教育実践——社会学教育委員会(2009年度～2012年度)報告書』日本社会学会社会学教育委員会、2013年3月

社会調査実習・ゼミ報告書

- ① 『語りの生成と物語の解体——「団塊の世代」のライフヒストリー(2000年度社会調査実習報告書)』千葉大学文学部行動科学科社会学研究室、2001年3月
- ② 『私の青春と戦争——記憶を記録する(2006年度桜井ゼミ報告書)』立教大学社会学部社会学科桜井研究室、2007年3月
- ③ 『匠——荒川の伝統工芸の世界(2007年度桜井ゼミ報告書)』立教大学社会学部社会学科桜井研究室、2008年3月
- ④ 『変わりゆく浦安と21の想い(2008年度桜井ゼミ報告書)』立教大学社会学部社会学科桜井研究室、2009年3月
- ⑤ 『新しい家族像を求めて(2009年度桜井ゼミ報告書)』立教大学社会学部社会学科桜井研究室、2010年3月
- ⑥ 『佐倉の記憶と変化——いきつづける想い(2010年度桜井ゼミ報告書)』立教大学社会学部社会学科桜井研究室、2011年3月
- ⑦ 『ライフストーリー・インタビュー——声なき叫びを聴く(2012年度桜井ゼミ報告書)』立教大学社会学部社会学科桜井研究室、2013年3月

その他

- ① 「現代社会と茶道」『円座』第2号、裏千家学生茶道研究会、1968年5月
- ② 「移動論・覚書(→)」『えるべか』(同人誌)no.20(発行人:桜井厚)1978年4月

- ③ 「日本の近代化と小川未明の世界」『継』（同人誌）vol.3（発行人：北川茂樹）1978年11月
- ④ 「移動論・覚書(二)」『えるべか』（同人誌）no.21（発行人：桜井厚）1978年12月
- ⑤ 「生活史論に向けて——行為の歴史性」『えるべか』（同人誌）no.23（発行人：桜井厚）1981年9月
- ⑥ 「社会学」『平凡社百科年鑑』no.83、平凡社、1983年4月
- ⑦ 「男も“楽”になる平等なセクシュアリティ」『女の人権と性——わたしたちの選択』径書房、1984年3月
- ⑧ 「男性に今求められているのは」『技術と経済』no.228、(社)科学技術と経済の会、1986年2月
- ⑨ 「人々にとって水道とは」『普及版 水と人の環境史』滋賀県琵琶湖研究所、1987年3月
- ⑩ 「ズナニエツキ」ほか 見田宗介・栗原彬・田中義久編『社会学事典』弘文堂、1988年2月→(再刊)『縮刷版 社会学事典』弘文堂、1994年3月
- ⑪ 「書評：M・アンダーソン『家族の構造・機能・感情』」『週刊読書人』1989年1月16日号
- ⑫ 「子連れ赴任顛末記」『現代のエスプリ——新男類の誕生』260、至文堂、1989年3月
- ⑬ 「子連れ赴任顛末記・余話」（史の会編）『独りひとりの歳月』（同人誌）第4号、1989年7月
- ⑭ 「常識の罫」奥村和子・松本八重子編『女と男・はじまりは語ることから——「名古屋の歌」の意味するもの』ユニテ、1990年8月
- ⑮ 「記述の研究——経験的アプローチ」（天野正子・石谷二郎・桜井厚共著）『シリーズ変貌する家族 8 家族論の現在』岩波書店、1992年11月
- ⑯ 「ライフ・ストーリー」ほか 森岡清美・塩原勉・本間康平編『新社会学辞典』有斐閣、1993年2月
- ⑰ 「ライフヒストリー調査雑感」『三色旗』第549号、慶應義塾大学通信教育部、1993年12月
- ⑱ 「対談 国際家族年の表と裏」（桜井厚・志村哲郎）『部落解放』367、解放出版社、1994年1月
- ⑲ 「個性の生きる町づくり」「男の本音」『男女共同参画型社会づくり男性リーダー養成講座 男性学講座講義要録』滋賀県・滋賀県教育委員会、1994年3月
- ⑳ 「随想 少子化現象と子どもへの愛着」『月刊なごや』no.143、北白川書房、1994年8月
- ㉑ 「家族」『男女共同参画型社会づくり男性リーダー養成講座 男性学講座講義要録』滋賀県・滋賀県教育委員会、1995年3月
- ㉒ 「OL」ほか 比較家族史学会編『事典 家族』弘文堂、1996年2月
- ㉓ 「イギリスからの手紙」『女性しが』no.23、滋賀県女性政策課、1996年3月
- ㉔ 「書評：古島敏雄『台所用具の近代史』」『週刊読書人』1996年11月1日号
- ㉕ 「もうひとつの近江文化①～⑮」『滋賀の人権情報誌 RILIANS』no.83～no.97、1997年6月～1998年8月
- ㉖ 「トマス&ズナニエツキ『生活史の社会学』」見田宗介・上野千鶴子・内田隆三、佐藤健二・吉見俊哉・大澤真幸編『社会学文献事典』弘文堂、1998年2月
- ㉗ 「書評：片桐雅隆『自己と「語り」の社会学』」『図書新聞』2000年12月2日号
- ㉘ 「講演：生活戦略としての語り——被差別部落の聞きとりから」『かがり火』第20号、千葉県高等学校教育研究会同和教育部会、2001年6月
- ㉙ 「書評：浅野智彦『自己の物語的接近』」『図書新聞』2001年9月22日号
- ㉚ 「インタビュー・プロセスの問題」「ライフヒストリー・インタビューの技法」白谷秀一・朴相権

- 編著『実践 はじめての社会調査——テーマ選びから報告まで』自治体研究社、2002年3月
- ③① 「インタビュー：桜井厚氏に聞く『インタビューの社会学』」『図書新聞』2002年6月15日号
 - ③② 「屠場文化——食肉・皮革を支える人びと」『解放研究』第16号、東日本部落解放研究所、2003年3月
 - ③③ 「書評：蘭由岐子『〈病いの経験〉を聞き取る』」『図書新聞』2004年9月18日号
 - ③④ 「『インタビューの社会学』書評論文リプライ」『社会学評論』55(3)、日本社会学会、2004年12月
 - ③⑤ 「座談会 経験を語る——食肉産業のうつりかわり」『別冊 ステイグマ』第16号、(社)千葉県人権啓発センター、2004年10月
 - ③⑥ 「日本の食肉文化と部落問題」『別冊 ステイグマ』第16号、(社)千葉県人権啓発センター、2004年10月→(再録)『ステイグマ』第171号、千葉県人権啓発センター、2010年9月
 - ③⑦ 「社会学教室の終焉と周縁」石原邦雄・熊谷苑子・考本貢・西山茂編『ある社会学徒 それぞれの体験——実証研究の拠点』東京教育大学社会学教室交流会、2005年1月
 - ③⑧ 「特集の言葉」『日本オーラル・ヒストリー研究』創刊号、日本オーラル・ヒストリー学会、2006年3月
 - ③⑨ 「書評：三浦耕吉郎編『屠場——みる・きく・たべる・かく』」『図書新聞』2008年10月4日号
 - ④① 「私の研究室から——〈語り〉を聞く」『立教ジャーナル』205号、2008年11月
 - ④② 「書評：小倉康嗣『高齢化社会と日本人の生き方：岐路に立つ現代中年のライフストーリー』」『社会学評論』60(2)、日本社会学会、2009年9月
 - ④③ 「講演録 インタビューという行為とライフストーリー——自己の語られ方と相互作用」『言語文化と日本語教育』第38号、お茶の水女子大学日本言語文化学会、2009年12月
 - ④④ 「書評：好井裕明編『排除と差別の社会学』」『こころの科学』151号、2010年3月
 - ④⑤ 「書評：前田拓也『介助現場の社会学』」『部落解放』631号、2010年6月
 - ④⑥ 「ウィリアム・トマスとフロリアン・ズナニエツキ：真のコラボレーション!？」『社会と調査』第5号、2010年9月
 - ④⑦ 「インタビュー・パイオニアにきく第2回：生活史からライフヒストリー、ライフストーリーへ」『質的心理学フォーラム』vol.2、日本質的心理学学会、2010年12月
 - ④⑧ 『質的研究入門Ⅲ 質的研究のあり方——ライフストーリー・インタビュー法 桜井厚先生・集中講義』大正大学福祉デザイン研究所、2011年3月
 - ④⑨ 「ライフストーリー」ほか 大澤真幸・吉見俊哉・鷲田清一編『現代社会学事典』弘文堂、2012年12月
 - ④⑩ 「個人の経験をいかに語り継ぐか」『東京新聞』2013年8月18日号
 - ④⑪ 「熱意と多様性の場——JOHA創設前後」『日本オーラル・ヒストリー研究』第9号、2013年9月
 - ④⑫ 「ライフストーリー分析」社会調査協会編『社会調査事典』丸善出版、2014年1月

